

◆2026年度 中学入試 第2回【理科】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	91.5%	92.8%	ロケットの発射実験や小惑星探査機「はやぶさ」、宇宙エレベーターを題材として、身近な科学技術の背景にある物理の考え方を問う内容とした。前半はロケットの飛行原理から力学の基本概念が中心であり、後半は物理とものづくり・プログラミングを結び付けて考えさせる内容とした。	計算自体は複雑ではないが、文章から必要な数値を読み取る問題は、多くの受験生ができていた。特にロケットの原理や遠心力の例では、言葉の印象に頼らず、力の向きや原因を、ほとんどの受験生が正しく理解していた。後半の歯車やセンサーの問題では、単なる知識ではなく、構造をイメージしながら論理的に判断する力は半分以上の受験生ができていた。ただし歯車が3つになり複雑な動きと計算を交えた最後の問題は20%程度の正答率であった。
	(2)	76.5%	83.9%		
	(3)	30.5%	35.9%		
	(4)	62.1%	65.9%		
	(5)	34.2%	39.9%		
	(6)	62.9%	65.0%		
	(7)	48.9%	57.0%		
	(8)	51.3%	59.2%		
	(9)	20.4%	30.0%		
2	(1)	80.8%	82.5%	日本を「島国」として捉え、島の定義・成因・地形・位置関係を総合的に理解しているかを問う内容とした。地形的特徴を資料や写真から読み取り、考察する力をねらっている。	全体として、基礎的な知識を問う問題や資料を素直に読み取る設問は正答率が高く、基本事項の定着は概ね良好であった。一方で、火山や自然環境の特徴、地形の成り立ちなどを資料と結び付けて考える応用的な問題では正答率が伸び悩んだ。合格者は全体的に安定して高い正答率を示し、特に資料の読み取りをもとに論理的に判断する力で差が見られた。
	(2)う	84.5%	89.2%		
	(2)え	63.3%	71.7%		
	(2)お	47.4%	51.1%		
	(3)	79.2%	82.1%		
	(4)	42.9%	44.8%		
	(5)	64.7%	73.1%		
	(6)	80.2%	84.3%		
(7)	59.0%	67.7%			
3	1	97.3%	99.1%	[1]は、空気中に含まれる各気体の特徴や反応性を理解しているかを問うものである。[2]は、混合気体の燃焼を題材に、表やグラフを活用して規則性を理解し、それを扱えるかどうかを確かめる出題をした。	基礎的な知識や計算の基本を問う問題は正答率が高く、内容の理解は概ね良好であった。(3)は本文をよく読み、正しく計算を行えたかどうかで大きく差が開いた。(4)は正答率は高かったものの、漢字ミスによる減点が多かった。(5)は種々の化学反応を確実に覚えているかどうかで大きく差がついた。(7)以降の、表を見て計算する問題は正答率が低かった。(7)で反応の規則性に気づけたかどうかで(8)、(9)に大きく差が開いたと思われる。
	[1](2)X	97.7%	99.1%		
	[1](2)Y	99.2%	99.1%		
	[1](3)	48.5%	63.7%		
	[1](4)	79.0%	87.4%		
	[1](5)	31.7%	41.7%		
	[2](6)	67.6%	80.7%		
	[2](7)①	93.8%	97.3%		
	[2](7)②	71.3%	80.3%		
	[2](7)③	62.5%	74.4%		
	[2](8)	52.8%	63.7%		
[2](9)	31.7%	38.6%			
4	(1)	68.0%	74.4%	ホップの栽培から研究、商品化、発信、再利用までの一連の取り組みを題材に、文章や図を読み取りながら科学的内容を筋道立てて考える力を問うものである。	全体として、文章内容を的確に読み取り、基本的な知識と結び付ける問題は正答率が高く、内容理解は概ね良好であった。一方で、実験の条件を整理して考える問題は正答率が低く、本文を根拠に論理的に考察する力に課題が見られた。文章の要点を押さえるだけでなく、「なぜそう言えるのか」を意識し、条件やデータを整理しながら考える力を高めることが重要である。
	(2)①	86.2%	90.6%		
	(2)②	81.6%	88.8%		
	(3)	35.0%	41.3%		
	(4)	83.7%	87.4%		
	(5)	88.7%	93.3%		
	(6)	48.5%	57.8%		
	(7)	30.1%	35.9%		
(8)	78.1%	82.5%			